

第20回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会(国産野菜の契約取引マッチング・フェア in 東京)の概要について

2月19日(火)、標記交流会を東京国際フォーラム(東京都千代田区)において開催しました。

1 出展者・来場者

今回は、全国各地から、過去最大となる112の事業者・団体が出展しました。初出展者も51と多く、新しい顔ぶれが揃い、出展者ブースには全国から冬春野菜を中心に様々な野菜が展示されました。

また、同日に、JAグループが東京国際フォーラムで「国産農畜産物商談会」を開催していたこともあり、来場者数は従来の2倍以上となる約1,200名にのぼり、初めての東京国際フォーラムでの開催は大いに盛り上がりました。



- ・ 出展者数 112 (うち、JA等4、農業法人等51、流通・加工業者27)
- ・ 来場者数 1,206 (うち、小売106、商社・卸・流通403、食品加工・製造161、外食・中食・給食業者143、マスコミ21)



2 特別商談会コーナー

マッチング成果のさらなる向上を図るために実施している「特別商談コーナー」(野菜ビジネス協議会及び青果物カット事業協議会の会員企業等と出展者を結び付ける、個別・予約制の商談会)には、実需者13社に対し30の生産者等が参加し、延べ97件の商談が精力的に行われました。



3 試食コーナー

出展者の商品のPRを強化するため、前回より始めた「試食コーナー」（出展者が持ち寄った「自慢の野菜」を、サラダバー形式で来場者が自由に試食できる）では、33の出展者が延べ65品目を提供し、常に行列ができる盛況ぶりでした。



4 来場者からの交流会に対する主な意見（来場者アンケートから）

良かった点	今後の改善、要望等
<ul style="list-style-type: none">・ホテル、レストランのメニュー開発に役立った。・新規野菜加工商材があった。・野菜の機能が良く分かった。・大変美味しい食材があった・異業種との新たな取組みのきっかけになった。・産地間のつながりを活かした安定供給の仕組みがすばらしかった。	<ul style="list-style-type: none">・各地域で開催してほしい。・大口ではない小口取引を主体としたマッチングも企画して欲しい。・地域の特性を強調して欲しい。・ドレッシングとの組合せ等野菜関連商品を出展して欲しい。・国産農畜産物商談会と会場間の行き来ができるが良い。

※第20回交流会の開催概要（詳細）については、当機構が発刊している野菜情報12月号に掲載しています（機構HP上の野菜>情報誌>月報 野菜情報 2013年4月号>第20回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会の概要）。

URL: <http://www.alic.go.jp/>

野菜情報

で検索